

令和4年度 大阪府立東大阪支援学校 第2回 学校運営協議会（記録）

令和4年12月17日（金）13時30分～14時45分

1.開会

2.校長挨拶 2学期も感染症対策を行いながら行事を行うことができた。主治医や進路先の関係機関を対象の見学会を行なって本校の様子を見ていただく機会が少しずつ増えてきた。今回は学校教育自己診断のアンケートの結果についても報告する。本日は数値の結果のみで、考察については第3回で報告致す予定。本日はご意見をいただきまして、学校経営計画に反映させていきたい。

3.協議

①学校教育自己診断アンケートについて

（学校）保護者のアンケートは昨年度より回収率が上がり 81.6%ありました。今年度新しく設問した「ICT機器が授業で活用されている」と昨年度からの「学校は新型コロナウイルス感染症予防策に取り組んでいる」は肯定的な意見が増加。分からないと回答が多いと肯定的数値が変わる傾向がある。

（委員）個別の指導計画の作成については保護者や放課後デイなど学校以外の観点が入っているのか？

→個別の指導計画は個別の教育支援計画に基づいて、長期目標短期目標を設定している。個別の教育支援計画で保護者からニーズを聞き取り、長期短期目標を設定している。

②令和4年度 学校教育自己診断アンケートの検討と回答について

（学校）

教職員用の集計結果は昨年度同様、Googleform を使用して回答率は 100%。

「緊急対応を行う際に校内のマニュアルの活用し、安全な指導ができています」は設問を全学部で分かりやすい設問にしたこと、「学校は、新型コロナウイルス感染症予防策に取り組んでいる」は、肯定的意見が増加。「授業など保護者が学校に来る機会がある」は、保護者が来校する機会が増えたので数値が増加したと考えられます。

「個別の指導計画に基づいて指導がされている」「進学進級した際の引継ぎができています」「学校では、カウンセリングマインドを取り入れた児童生徒の指導を行っている」「教育活動に役立つ研修を計画的に行っている。」が否定的な意見が多い学部があった。

「教室など校内の学習環境は整えられている」「施設設備について、点検管理を行い、適切な修理を行っている」は昨年度同様に検討課題となっています。

「ICT 機器が授業などで活用されている」は 88.5%であった。

（委員）

・「個別の指導計画に基づいて指導がされている」どこが悪かったのか？という質問を行うことで改善できるのではないかと。

・「進学進級した際の引継ぎができています」は、小から中の引継ぎのことなのか？中から高の引継ぎのことを言っているのかを聞いてみてはどうか。

・療育手帳がある生徒が高校に進学し、その後大学や専門学校にしてからレピラにくることもある。高等部は進学してからの進路は？支援学校から大学や専門学校に進学するせいとはいえるのか？

→大学や専門学校への進学については、ここ近年はいませんが、昔はいました。進路は作業所（生活介護、自立訓練、就・移行）職業訓練、就職に分かれている。

③授業アンケートについて

別紙 回収率は全体で 80.2%で、おおむね肯定的な意見をいただいていた。

④令和5年度 教科書選定について

別紙 各学部課程で過去のつながりも考慮して採択しました。

⑤タブレット端末の利活用と実践事例

タブレット端末の持ち帰りは各学部課程が実施するグループや学年を設定。持ち帰らない児童生徒に関しても校内で利活用をしています。実施する際に書類作成し、同意書兼借用書に署名いただき持ち帰りを実施しました。

実践事例

- ・中学部 A グループの美術の事例(keynote や garageband を使用して教材作成)Keynote に音声や音楽を入れて楽しい雰囲気で開催できた。
- ・高等部生活課程職業コースの生徒が学習しているグループ(インターネットブラウザを使用した調べ学習。学校から東大阪市役所までどのような行程で行けばいいのかというところを穴埋め式のプリントで端末を使って調べて答えました)
- ・中学部生徒(人体模型パズルというアプリを使用して本人がどの程度理解しているのかを理解することができました)

児童生徒分(令和3年5月1日現在)で5か年リースという形で学校に届いている。ほぼ1人1台端末である。学校ではWi-Fi 接続できる。

委員)対象生徒はどのように設定したのか?

→持ち帰りの人だけ設定しました。